

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	公共政策研究科 サステナビリティ学専攻 修士課程《一般》	2026年度 第3回
小論文		

《解答又は解答例》

<設問1> 第二の任務は、現在進行中の地球温暖化の背景にある自然の変動の効果を正当に評価する取り組みである。地球温暖化は太陽活動の長期変化で起きているとの主張が一部にある。しかし、予想される気温の変化幅は近年の温暖化と比べるととても小さく、また太陽活動の変動パターンは最近の温暖化のパターンと合っていない。古気候学の研究で得られた過去二〇〇〇年間の気温変動のデータに基づくと、一九世紀以前の気温の変動は空間的にかなり不均質に起きていたが、二〇世紀以降は地球全体で一斉に温暖化している。このような気温の上昇の原因としては、産業革命以降の人間活動による大気中の温室効果ガスの急速な蓄積以外に考えられない。

<設問2> 地球温暖化の将来を予測する気候システムモデルの能力を検証するうえで、「予測が当たったか外れたか」についての実際の経験をモデルの改良に生かせない点は致命的である。しかし、太陽活動などの気候に影響をおよぼす諸データの変遷を古環境学的な観測結果に基づいて正確に与えようとしてモデルに気候変動を計算させ、計算結果と古気候学的な復元結果との照合を行うことにより、モデルの性能を評価することができる。

<設問3> 論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできません。解答にあたっては、「適応」に向けた地方政府や地方公共団体の取り組みとして適切なものをひとつ挙げ、具体的な説明を行うとともに、解決すべき課題を自らの考えに基づいて述べてください。

《出題の意図》

課題文の読解および設題への解答を通じて、文章読解力、論理的思考力、および文章表現力を測るとともに、主要な社会課題のひとつである地球温暖化に関する問題意識を問うことを意図した出題です。